

栗原市

泉谷お屋敷祭り





栗原市瀬峰泉谷地区では、この地域を開拓した仙台藩士・橋本宗圓の遺徳を偲び行ってきた「お屋敷祭り」と、春彼岸の中日に悪疫退散等を祈願し藁人形を掲げて行列後、これを川原で焼く「春彼岸の送り」が藩政時代から行われてきました。昭和55年に2つの行事を一つに合わせて、新たな「泉谷お屋敷祭り」として行われており、市の無形民俗文化財に指定されています。



祭りでは、橋本家の菩提寺である金澤寺で読経を行った後、藁人形を先頭に袴姿の人々ときらびやかな衣装をまとった子どもたちが行列を組み、地区内を



1 kmほど練り歩き、最後は大水門川堤防で藁人形に火をつけ、悪疫退散、害虫追放、地区の安全を祈ります。それぞれの伝統行事の趣旨や細部形態がよく保存されていて、泉谷地区の歴史をうかがうことのできる祭りです。現在祭りは、4月初旬の日曜日に行われています。